

1. 科目名（単位数）	人体の構造と機能及び疾病（2 単位）	3. 科目番号	GELA1112 GELA1333 GELA1312
2. 授業担当教員	高橋 登志子		
4. 授業形態	講義、ディスカッション、ならびに意見発表	5. 開講学期	春期（池袋） 秋期（王子）
6. 履修条件・ 他科目との関係	特になし		
7. 講義概要	この講義は、総合社会科学としての医学の側面についても触れ、生活の質（QOL）を豊かにする保健・医療・福祉・心理のあり方についても学び、福祉専門職者・心理専門職者として要求される最低限の医療、医学の知識の習得を目標とする。さらに、最新の健康情報の検証も行う。 具体的には、 ●心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ●生活習慣病とその予防について、健康増進の正しい方策について理解する。 ●国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 ●リハビリテーションの概要について理解する。		
8. 学習目標	1. 人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 2. 健康・疾病の捉え方について理解する。 3. 人の身体構造と心身機能について理解する。 4. 疾病や障害の成り立ちおよび回復過程について理解する。 5. 公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。		
9. アサインメント （宿題）及びレポート課題	1. 人体の各部を図と名称を作成する。 2. 授業中に提示した事例から疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーションについて作成する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論』中央法規。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 心身の機能と身体構造を自分の体と日常生活に照らし合わせてできるようになったか。 2. 生活習慣病の理解と予防を考察できるようになったか。 3. 少子高齢社会におけるリハビリテーションを理解し、必要性を説明できるようになったか。 4. 厚労省が推進する高齢者の QOL の基本的な考えを理解できるようになったか。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度や学習状況、レポート、期末テスト等を総合して評価する。 授業への参加度 30%、レポート 30%、期末テスト 20%、発表能力 20%]		
12. 受講生への メッセージ	本科目では、身体的・精神的特徴および疾病の基礎を学び、「人」を全人的にとらえられるようにします。そこから、人の健康についての考え方や終末期について自分の考えを述べられるようにしていきます。また、生活習慣病・メタボリックシンドローム、認知症、発達障害や精神障害等についても自分の考えを述べていきます。よって、事後学習では自己のノートや配布資料から学びを深めてほしい。 授業に参加するにあたり下記のこと心がけてください。 ・授業には教科書を必ず持参すること、事前学習を必ず確認して参加してください。 ・授業中は通信手段の電源を切ってください。		
13. オフィスアワー	アドレス p-totakaha@ed.tokyo-fukushi.ac.jp にご連絡ください。 そのほかの詳細は、授業開始時に説明します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ライフステージにおける心身の変化と健康課題① ライフステージにおける心身の特徴 心身の加齢・老化	事前学習	教科書のはじめにと目次、教科書 pp. 2～14 のライフステージにおける心身の変化の特徴と心身の加齢・老化を読んで臨む。
		事後学習	ライフステージにおける心身の変化と心身の加齢・老化についてまとめる。
第 2 回	ライフステージにおける心身の変化と健康課題② ライフステージ別の健康課題	事前学習	教科書の pp. 15～20 のライフステージ別の健康課題を読んで臨む。
		事後学習	ライフステージ別の健康課題についてまとめる。
第 3 回	健康および疾病の捉え方 健康と疾病の概念 国際生活機能分類（ICF）	事前学習	教科書の pp. 22～30 の健康と疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）を読んで臨む。
		事後学習	疾病の概念、国際生活機能分類（ICF）についてまとめる。
第 4 回	疾病の障害の成り立ちおよび回復過程	事前学習	教科書の pp. 58～68 の疾病の障害の成り立ちおよび回復過程を読んで臨む。
		事後学習	疾病の障害の成り立ちおよび回復過程についてまとめる。

第5回	リハビリテーションの概要と範囲① リハビリテーションの定義 リハビリテーションの目的	事前学習	教科書の pp. 69～74 のリハビリテーションの定義、リハビリテーションの目的を読んで臨む。
		事後学習	リハビリテーションの定義、リハビリテーションの目的についてまとめる。
第6回	リハビリテーションの概要と範囲② リハビリテーションの対象 リハビリテーションの方法	事前学習	教科書の pp. 78～89 のリハビリテーションの対象、リハビリテーションの方法を読んで臨む。
		事後学習	リハビリテーションの対象、リハビリテーションの方法についてまとめる。
第7回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション① 感染症 神経疾患、認知症、高次脳機能障害	事前学習	教科書の pp. 91～107 の感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害を読んで臨む。
		事後学習	感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害についてまとめる。
第8回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション② 脳血管疾患 心疾患	事前学習	教科書の pp. 108～121 の脳血管疾患、心疾患を読んで臨む。
		事後学習	脳血管疾患、心疾患についてまとめる。
第9回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション③ 内分泌・代謝疾患 呼吸器疾患	事前学習	教科書の pp. 122～137 の内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患を読んで臨む。
		事後学習	内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患についてまとめる。
第10回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション④ 腎・泌尿器疾患 消化器・肝胆膵疾患	事前学習	教科書の pp. 138～150 の腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患を読んで臨む。
		事後学習	腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患についてまとめる。
第11回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑤ 血液・免疫・アレルギー疾患 眼科疾患、視覚障害 耳鼻咽喉科疾患、聴覚障害、平衡機能障害	事前学習	教科書の pp. 157～176 の血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉科疾患、聴覚障害、平衡機能障害を読んで臨む。
		事後学習	血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉科疾患、聴覚障害、平衡機能障害についてまとめる。
第12回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑥ 口腔疾患 婦人科・産科 精神疾患、精神障害、発達障害	事前学習	教科書の pp. 177～195 の口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患、精神障害、発達障害を読んで臨む。
		事後学習	口腔疾患、婦人科・産科、精神疾患、精神障害、発達障害についてまとめる。
第13回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑦ 小児科疾患、肢体不自由児、知的障害 高齢者に多い疾患	事前学習	教科書の pp. 196～208 の小児科疾患、肢体不自由児、知的障害、高齢者に多い疾患を読んで臨む。
		事後学習	小児科疾患、肢体不自由児、知的障害、高齢者に多い疾患についてまとめる。
第14回	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション⑧ 生活習慣病、内部障害	事前学習	教科書の pp. 209～218 の生活習慣病、内部障害を読んで臨む。
		事後学習	生活習慣病、内部障害についてまとめる。
第15回	公衆衛生 公衆衛生の概要 健康増進と保健医療対策 まとめ	事前学習	教科書の pp. 219～231 の公衆衛生を読むこと。また、第14回にまとめたノートを持参して臨む。
		事後学習	これまでの学習内容について配布資料やノート等を見直し、全体をまとめる。
期末試験			